

# 第2章 国分寺市の環境の現状と課題

## 1 環境の現状と課題

### (1) 自然環境

- ・ 国分寺市は、国分寺崖線\*やお鷹の道・真姿の池湧水群など、豊かな緑と水に彩られ、武蔵野の面影を残す住宅都市です。国分寺市市民意向調査（平成23年1月実施、以下「市民意向調査」という）において、地域のくらし満足度として「自然や緑の豊かさ」を挙げる方が約7割にのぼりました（16ページ参照）。一方、平成20年の調査では市内の緑被率は25.8%で、平成10年時点と比較すると、10年間で4.2ポイント減少しており、地球温暖化や生物多様性への影響、緑の減少などを踏まえ、緑や水辺の保全に取り組む必要があります。
- ・ 野川は市内唯一の河川ですが、コンクリート三面張りの護岸になっており、生き物が生息しにくい環境であり、親水性に乏しく、景観形成上も良好とはいえない状態です。小金井市以降の下流部では東京都による野川整備事業\*が既に完了しており、国分寺区間においても貴重な地域資源として早期整備が望まれていることから、野川整備事業を促進する必要があります。
- ・ 都市農地は市内の約15%、緑被地の約58%を占めています。宅地開発などによって都市農地が減少していることから、地下水への涵養\*などの農地が持つ多様な機能に着目し、農地を保全するとともに、都市農業の振興を推進していく必要があります。
- ・ 市内の水道水には地下水が使われており、割合は55%以上を維持していました。平成22年4月から水道事業が東京都へ移管されたため、地下水の割合継続を東京都へ要望していく必要があります。

(参考) 東京都では水道水の安定供給のために、高度浄水処理\*をした河川水を地下水に加えています。

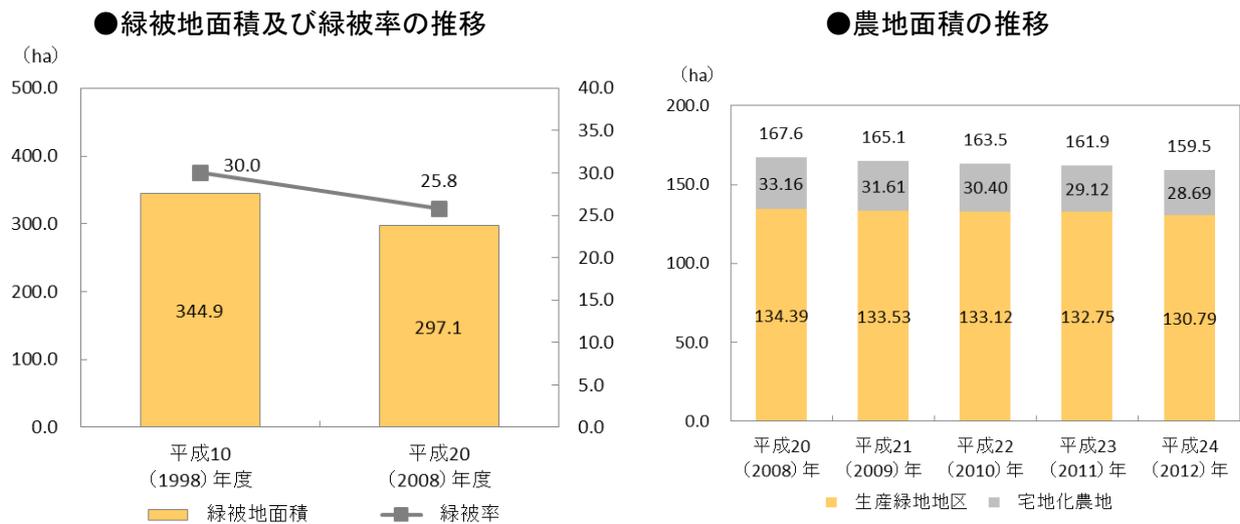
●緑被地面積及び緑被率\*の推移

分類		平成10(1998)年		平成20(2008)年		
		面積(ha*)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	
自然面	緑被地	樹林地	82.07	7.1	77.70	6.8
		庭	24.85	2.2	22.11	1.9
		草地	25.87	2.2	25.28	2.2
		農地	121.90	10.6	94.04	8.2
		植木畑・果樹園	90.24	7.8	77.92	6.8
	野菜畑	344.93	30.0	297.05	25.8	
	緑被地合計	49.28	4.3	31.16	2.7	
裸地	1.98	0.2	2.58	0.2		
水面	自然面合計		396.19	34.4	330.79	28.8
人工被覆地※1		754.21	65.6	819.61	71.2	
総合計※2		1,150.40	100.0	1,150.40	100.0	

※1 人工被覆地：コンクリートやアスファルトなどの人工物に覆われた土地のこと。

※2 けやき公園（小平市2.4ha）を含む区域1,150.4haを計画対象区域として計算。

資料：緑の基本計画2011（平成23年3月）国分寺市

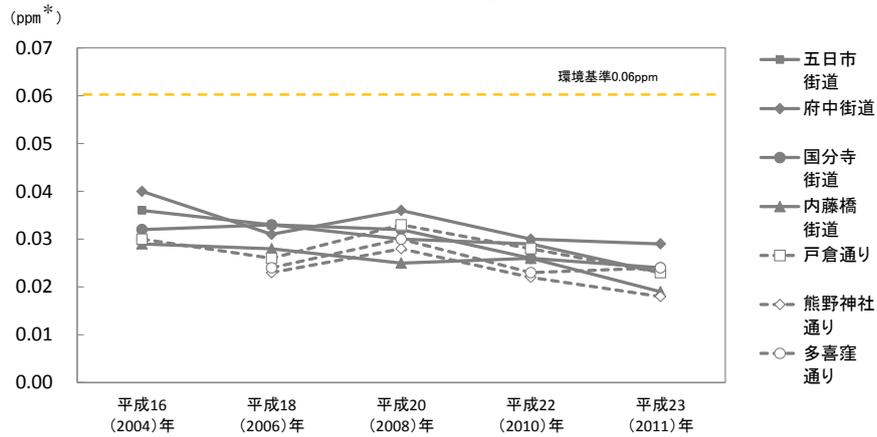


資料：緑の基本計画 2011（平成 23 年 3 月）国分寺市

## (2) 生活環境

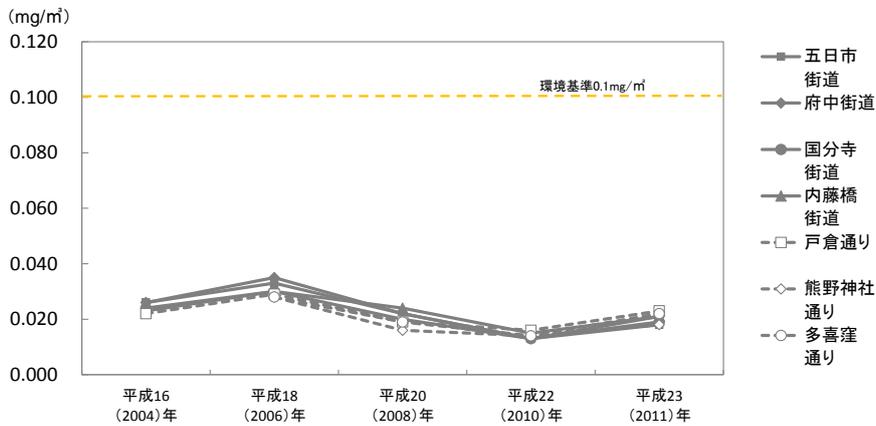
- 市民の安全・安心な暮らしの確保に向けて、大気、水質などの測定、各種調査を実施しています。引き続き、大気などのモニタリング\*や化学物質対策を進めていく必要があります。
- 主要幹線道路7地点における大気、騒音・振動に関する調査において、大気は全地点で環境基準\*を満足し、騒音は一部環境基準を超過していますが、要請限度\*は全地点で満足しています。振動については、全地点で要請限度を満足しています（振動には環境基準はありません。）。
- 水質については、野川をはじめ真姿の池や新次郎池（東京経済大学内）などで水質調査を行っています。代表的な水質の指標である BOD（生物化学的酸素要求量）\*を見ると、これらの調査箇所において環境基準を満足しています。
- 東日本大震災に伴う原子力発電所の事故によって放射性物質が拡散し、新たな課題が生じました。市では、平成 23 年 7 月 11 日から市内の定点 40 カ所（平成 24 年 2 月からは定点 32 カ所）で2週間に一回、定期的な空間放射線量\*を測定するとともに、清掃センターの焼却灰、保育園・小中学校などの給食食品の放射性物質濃度\*を測定しています。長期的な環境への影響が懸念されていることから、市放射能対策に関する基本的な対応方針（77 ページ参照）に基づき、市民の健康と安全を確保するため、空間放射線量、放射性物質濃度の測定、適切な情報提供などに取組んでいく必要があります。
- 農薬の過度の使用や遺伝子組換え食品\*、放射性物質など、安全で健康的な食生活への不安が高まっていることから、適切な情報提供を行うなど、食の安全性を確保していく必要があります。

### ●二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) の経年変化



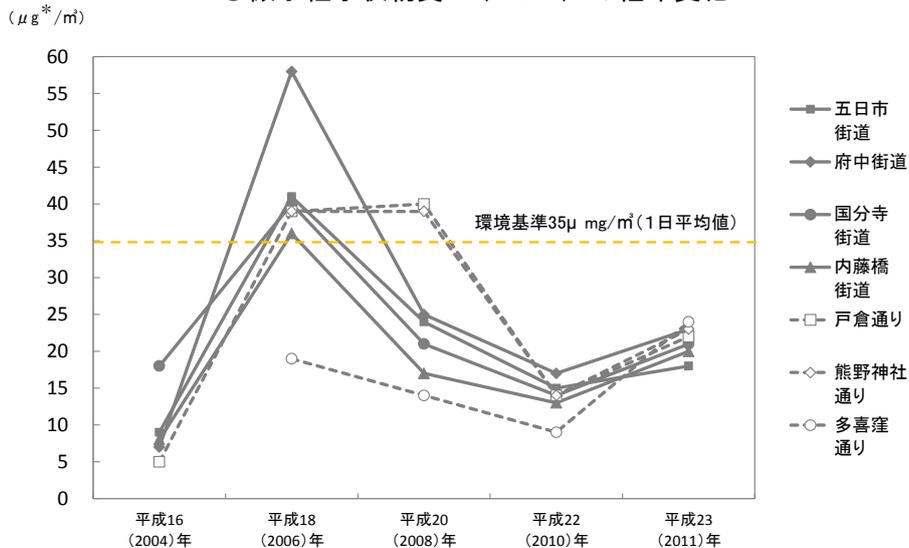
※ 日平均の期間平均値 (冬期7日間の連続測定[12月])

### ●浮遊粒子状物質\* (SPM) の経年変化



※ 日平均の期間平均値 (冬期7日間の連続測定[12月])

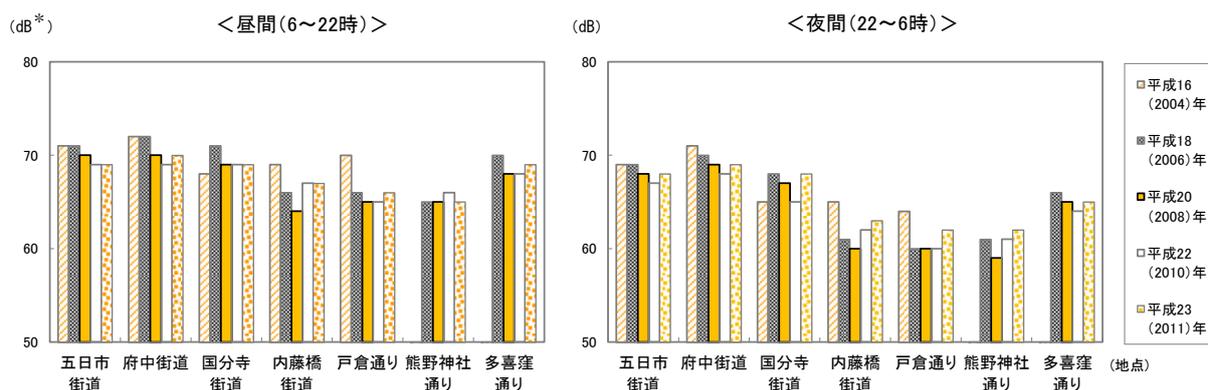
### ●微小粒子状物質\* (PM<sub>2.5</sub>) の経年変化



環境基準：1年平均値が15µg/m³以下であり、かつ、1日平均値が35µg/m³以下(平成21年9月設定)。なお、本調査では、冬期(12月)7日間の連続測定であり、年間の総有効測定日数が250日に満たないことから、環境基準による大気汚染の評価は参考値とします。

※ 日平均値の最高値 (冬期7日間の連続測定[12月])

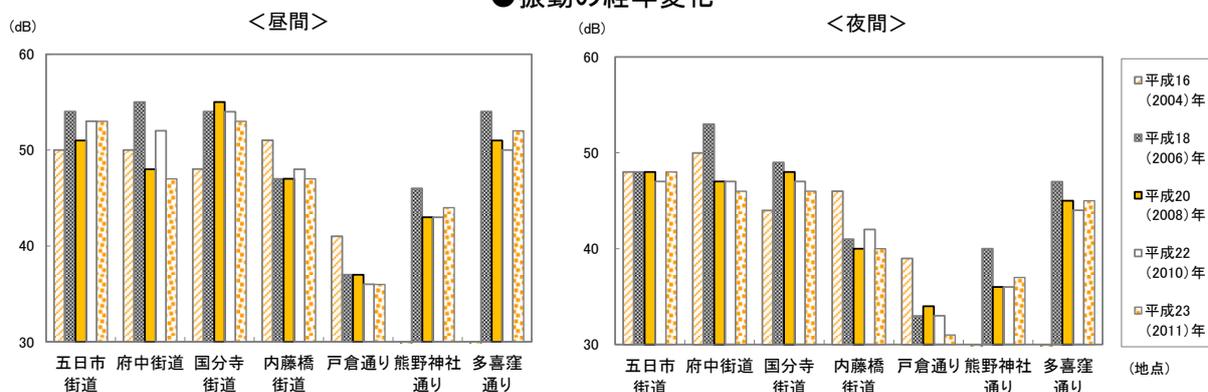
### ●騒音の経年変化



※ 冬期7日間の連続測定(12月)

環境基準：五日市街道・府中街道・国分寺街道・多喜窪通り 昼間：70dB以下，夜間：65dB以下  
 内藤橋街道・戸倉通り・熊野神社通り 昼間：60dB以下，夜間：55dB以下

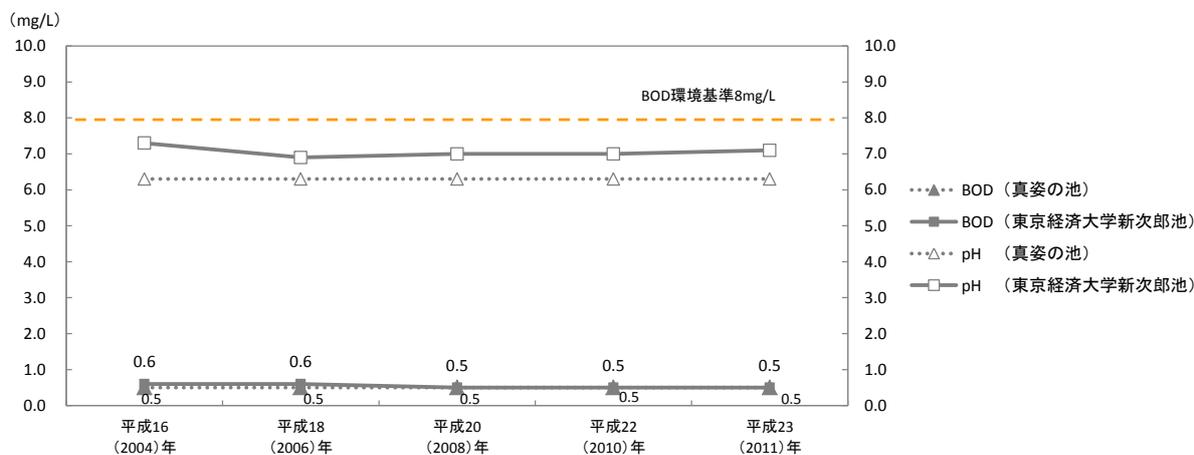
### ●振動の経年変化



※ 冬期7日間の連続測定(12月)

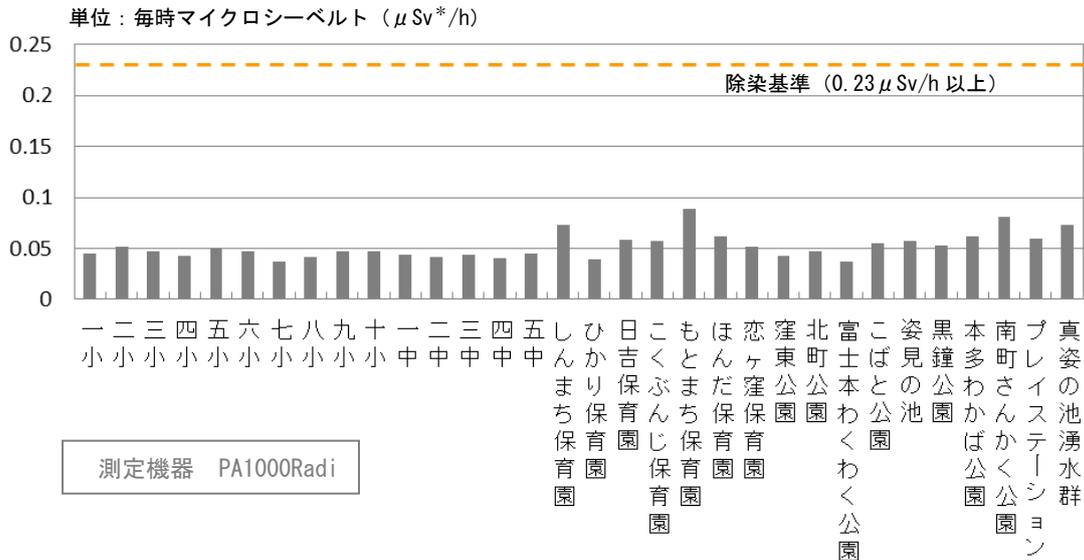
要請限度：府中街道・国分寺街道・多喜窪通り 昼間：70dB以下(8～20時)，夜間：65dB以下(20～8時)  
 五日市街道・内藤橋街道・戸倉通り・熊野神社通り 65dB以下(8～19時)，夜間：60dB以下(19～8時)

### ●湧水の pH (水素イオン濃度)・BOD (生物学的酸素要求量) の経年変化



※ 市内2地点で年6回測定

### ●空間放射線量

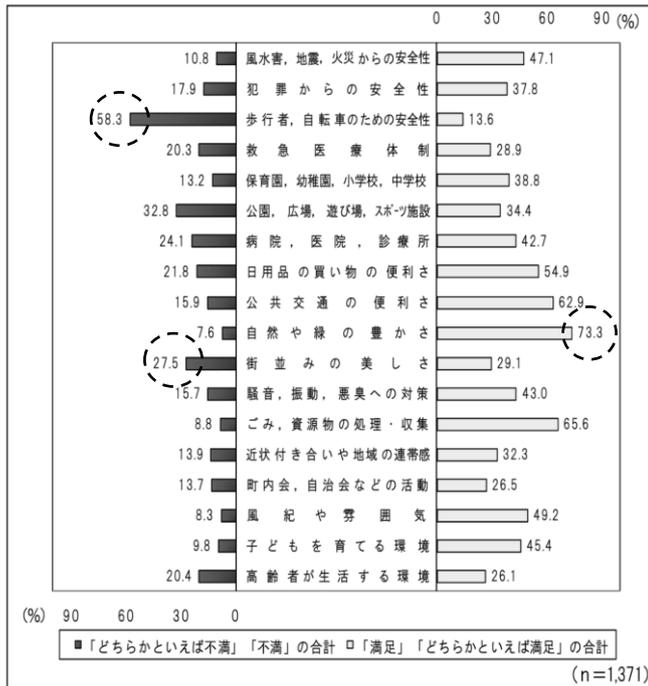


※ 平成 24 (2012) 年 2 月～平成 25 (2013) 年 2 月までの平均値  
 ※ 市内の定点 32 か所 (敷地の中心部の地上 5 cm) で 2 週間に 1 回程度測定  
 資料：環境報告書\* (平成 20～24 年度版)・環境計画課資料

### (3) 都市環境

- ・ 市民意向調査結果から、「歩行者、自転車のための安全性」に対する市民満足度が低く、「道路が狭いので拡幅してほしい」「歩道を確保し、沿道緑化を進めてほしい」などの市民の要望が伺えるため、安全で環境に配慮した道路整備を進めていく必要があります。
- ・ 自転車は、自動車に比べて地球温暖化防止や排気ガスの削減につながることから、自転車利用促進に向けた環境整備を行うとともに、自転車の運転マナーの向上やルールづくりに取り組む必要があります。
- ・ 喫煙マナーアップキャンペーンや市内一斉清掃活動 (クリーン運動) などでは、市民・事業者等との協働によるまちの美化活動を行っています。
- ・ 市民意向調査では、「街並みの美しさ」に対する市民満足度が低いことから、景観に配慮したまちづくりを進めていく必要があります。
- ・ 市内には、国指定史跡武蔵国分寺跡など、歴史的景観や文化財が数多く存在していることから、これらを積極的に保存・活用していく必要があります。

## ●地域のくらし満足度



資料：国分寺市市民意向調査報告書 2011 年（平成 23 年）4 月

## ●市内の指定文化財

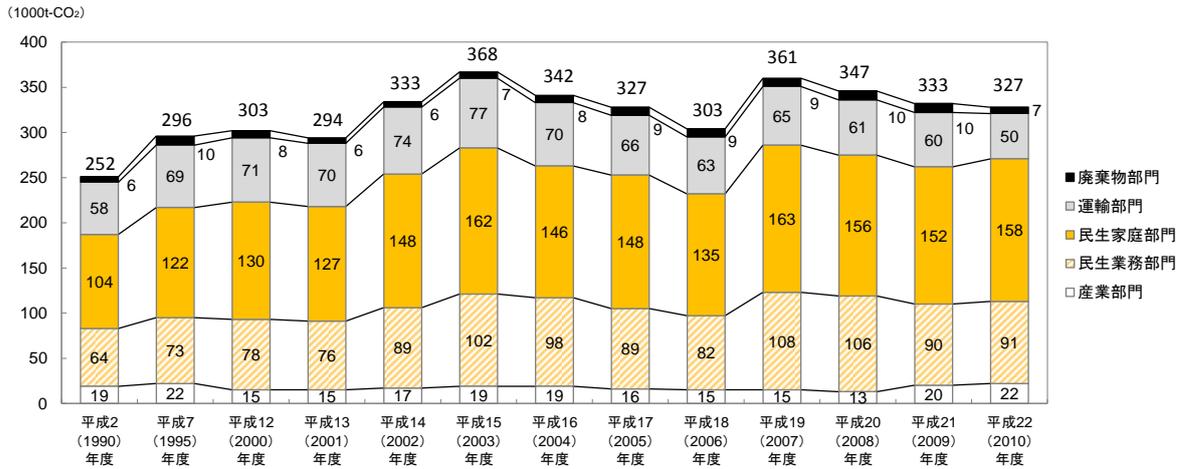
	種別	指定・登録件数
国指定文化財	重要文化財（彫刻）	1
	史跡	1
	重要文化財（考古資料）	1
	名勝*	1
国登録有形文化財	登録有形文化財（建造物）	2
都指定文化財	有形文化財（彫刻・考古資料）	1
	有形文化財（考古資料）	2
	名勝	1
市指定文化財	重要有形文化財（建造物）	6
	重要有形文化財（考古資料）	3
	重要史跡	2
	重要天然記念物	3
	重要有形文化財（古文書・古記録）	8
	重要有形文化財（歴史資料）	2
	重要有形民俗文化財	1

資料：平成 24 年度国分寺市統計

## （４）地球環境

- ・ 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量は各年の電力の二酸化炭素排出係数や気温などによって変化します。平成 2（1990）年度以降、増減の波はありますが、全体として増加傾向にあります。要因としては、民生家庭部門\*、民生業務部門\*の増加が大きいことから、市の公共施設をはじめ、家庭や事業者等による省エネルギーの取組の推進、太陽光などの再生可能エネルギーの導入を推進する必要があります。
- ・ 国分寺市周辺（気象庁アメダス観測所：府中）の気温について見ると、日平均気温の平均は、年々増加している。また、激しい雨（1 時間に 30mm 以上 50mm 未満）、猛烈な雨（1 時間に 80mm 以上）の年間出現日数は、増減しながらもやや増加傾向となっている。
- ・ ごみは、資源の有効利用、ごみ焼却に伴う二酸化炭素排出の観点から、ごみの減量化・資源化を考えていく必要があります。ごみ減量・資源化の市民意識の向上により、ごみ・資源物量全体及び 1 人 1 日あたりの排出量は、年々減少しています。しかし、未だにもやせるごみに資源物が混入されていることから、ごみの減量化・資源化を推進する必要があります。

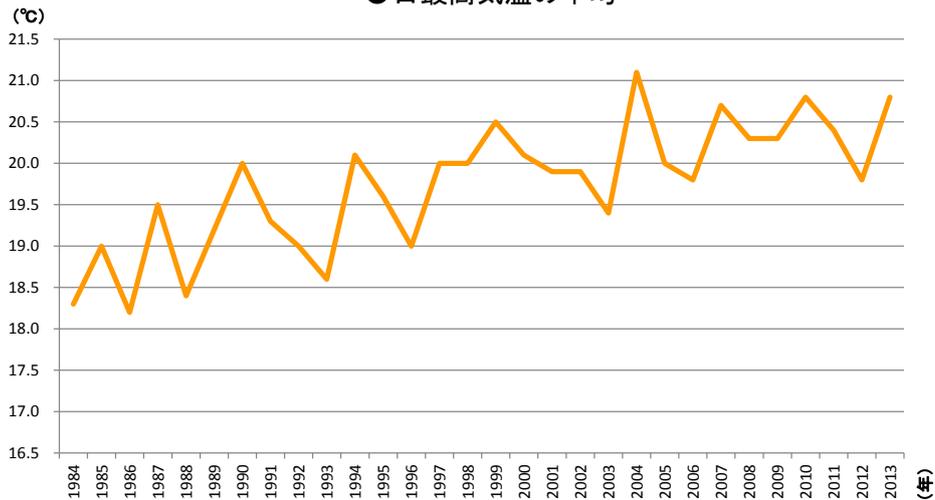
### ●部門別二酸化炭素排出量の推移



※ 平成15(2003)年、平成19(2007)年の増加は、東京電力の検査・点検等の不正問題に起因する原子力発電所の稼働率低下(平成15[2003]年)、新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所の停止(平成19[2007]年)の影響による電力の二酸化炭素排出係数の増大によるものです。

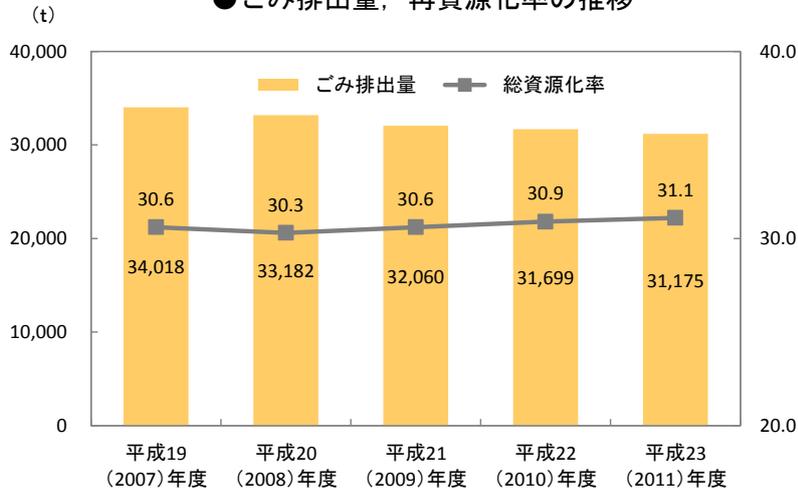
資料：国分寺市の温室効果ガス排出量(1990年度～2009年度) 平成24年3月  
 オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」

### ●日最高気温の平均



資料：気象庁アメダス(府中)

### ●ごみ排出量，再資源化率の推移



資料：国分寺市一般廃棄物処理基本計画、ごみ減量化・資源化行動実施計画(平成22年度～24年度アクションプラン)、ごみ対策課資料

## (5) 環境教育・環境学習

- ・ 環境学習に関する講座やシンポジウム、自然観察会や体験型学習の機会を提供するなど、市民への環境意識の向上に取り組んでいます。市民一人ひとりが地域に関心を持ち、学び、行動することで良好な環境の保全につながることから、今後も市民や事業者等への環境意識の向上や環境活動の普及促進に取り組む必要があります。
- ・ 環境団体の活動、自治会、町内会などでのお祭りや懇談会、清掃活動など、地域活動が展開されています。こうした活動を次世代につなげていくためにも地域づくりの活動、人材育成を促進する必要があります。

### ●環境学習などの実績

事業名
環境問題講座 ー農と食から地産地消を考えるー
無農薬で野菜を作る講座
子ども農業体験講座
ふるさと再発見シリーズ ー農業体験講座ー
水と緑の講座 ー里山で落ち葉かきー
こども冒険クラブ ーカブトムシ、めっけ！ー
環境シンポジウム (講演1「省エネから地球1個分のくらしへ」 講演2「わが家は太陽光と燃料電池併用の発電所」)
環境フェスタ in 国分寺 講演「地球温暖化と異常気象」
環境まつり
3R講座*
環境学習会の実施 ー小中学生を対象とした市の環境施策の紹介ー
環境ひろば
地域子ども教室 ー森のふしぎ塾ー
青少年地域リーダー講習会 ー中学1年生～高校3年生のリーダー育成ー
わんぱく学校 ー野外活動、ボランティア活動、クリーン運動参加ー
エコ手作り教室 ー小物づくりでエコ体験ー